

1 演題 「職員の育成と指導の在り方」

2 講演

(1) 静岡県幼児教育サポートチーム 成瀬 由美子 氏

ア 現代の「新と真」

- ・ 変わりゆく時代の新しいこと(新)と、変えてはいけない不易なこと(真)がある。保育の大きな変革期ではあるが、園長は保育の目的や大切にして欲しいことを語り、職員は何のための幼児教育なのかを常に考え、保育の質の確保のため専門性を高めていくことが重要である。

イ 職員への関わりと子供への関わりは共通している

- ・ 遊びや生活の中での子供の姿を職員間で語り合うことで子供理解が深まる。保育の質を向上させるためには、子供から学ぶ姿勢も大切である。
- ・ 子供の育ちは教師の育ちにつながる。子供も教師も互いの良さを認め合える組織作りに努めたい。
- ・ 子供同様に職員も安心して自分を出したり、考えを試したりできるように、職員に任せ見守ることも大切である。その経験が自己決定する力となり失敗を乗り越えていけるようになる。

ウ 豊かな心の育ちを支える

- ・ 子供の豊かな心の育ちを支えるために、入園前の幼児期の心の発達を知る必要がある。
- ・ 子供は1歳半頃から「自我」が芽生え、大人との関わりの中で「第2の自我(社会的知性)」が芽生え始める。4歳半～5歳頃になると、この2つの自我をつなげる「自己内対話能力」を獲得しながら、仲間と創り出す活動を繰り返すようになる。そのため、自我が芽生える時期に丁寧な保育や身近な大人の関わりが大切である。

(2) 静岡県幼児教育センター 幼児教育支援員 大村 千容子 氏

ア 組織マネジメント

- ・ 園長と主任が一枚岩になって、園運営について話し合う時間を確保することが大切である。
- ・ 職員会議で決定した事項が変更になった場合は、変更点を全体に周知する必要がある。
- ・ 働き方改革は必要だが、職員が集まって打ち合わせをする時間も大切にしたい。
- ・ 職員が自身の仕事に見通しをもって取り組めるよう、全員で行うことは事前に時間を決めておくとよい。

イ 園内研修の充実

- ・ 職員の思いに寄り沿いながら方向性を導き出したり、気軽に発言できる雰囲気を作ったりしながら発言を促していくとよい。
- ・ 保育の振り返りは、幼児の発達の理解と教師の指導の改善という両面から行うことが大切であり、保育の質の向上のためには、子供の姿の伝え合いや活動の記録で終わらず、教師の環境構成や援助はどうか評価することが大切である。
- ・ 教師間の連携から子供を丁寧に見守る環境が生まれる。

ウ コミュニケーションを豊かに

- ・ 職員と良好な関係性を築き、面談の中で互いに本音で語れるようになることが望ましい。
- ・ 園長が保育の環境や援助を子供の姿に関連付けながら褒めることで職員が自信をもつことができ、保育の充実につながっていく。